

神々をつなぐ

3県知事に聞く

古事記編さん1300年を迎え、神話への関心の高まりとともに、古事記ゆかりの本県、島根、奈良県はそれぞれ工夫を凝らしながら魅力を伝え、誘客を図る。第3部は3県知事にインタビュ―。初回は島根県の溝口善兵衛知事に取り組みや他県との連携などについて聞いた。(聞き手 報道部・清水正樹)

X X

— 島根県は、ヤマタノオロチ退治やオオクニヌシの活躍など出雲神話で知られる。溝口 県内には古くか

島根 溝口善兵衛知事

[上]

出雲大社を軸に誘客

らの神社がある。中でも出雲大社は大きな存在で、地域の精神的な柱になっている。「大社さん」と地域で親しまれ、神在月(旧暦10月)には日本中からたくさんの方々が集まっているので、静かに過ごそうという風習が残っている。

— 60年に1度の出雲大社大遷宮が行われる2013年度までの4年間、島根県は「神々の国しまね」プロジェクトを展開している。始めるきっかけは。

溝口 奈良県で2010年に行われた「平城遷都1300年祭」に触発されたこと。島根県には誘客する素地は十分あるが、必ずしも生かし切れ

ていなかった。09年3月まで放映されたNHK朝の連続テレビ小説「だんだん」は、双子姉妹が出雲大社で運命の出会いをするところから物語が始まる。縁結びやパワースポットが注目された時期だった。県職員からも色々なアイデアが出され、プロジェクトの構想は自然と広がっていった。

— メーンイベントの「神話博しまね」は7月21日から11月11日まで開かれる。

溝口 主会場は出雲大社周辺。「神話映像館」で神話の世界を体感してもらい、「しまね魅力発信ステーション」で神楽など県内の伝統芸能を見せる。県立古代出雲歴史博物館は国宝の銅剣、銅鐔など歴史的な遺産を多数所蔵しており、古代出雲に強い勢力があったことを感じてもらう。縁結びやパワースポット、スピリチュアルなど神話を生かしたこれまでの取り組みも活用していく。

県内には古事記だけでなく、世界遺産の石見銀



みぞぐち・せんべえ 島根県益田市出身。東京大経済学部卒業後、大蔵省(現財務省)入り。国際局長や財務官など歴任。国際金融情報センター理事長を経て、2007年の知事選で初当選。2期目。66歳。

山遺跡や世界ジオパーク加盟を目指す隠岐ジオパークがある。代表的な観光素材である古事記のほか、豊かな自然や食、芸能の魅力を伝え、県民とともにおもてなしをしたい。島根県は大都市圏から遠い。東京などからみれば、鳥取と島根は区別がつかない人もいるので、まだまだ大都市圏でPRをしていかないといけない。島根に来てよかったと思ってもらい、周囲の人に薦めてくれるような好循環をつくりたい。

(2面に続く)

古事記編さん1300年「神々をつなぐ」に関連し、本県と島根、奈良県との関わりなどを紹介する特集を16、17面に掲載しました。